

教育課程特例校（外国語活動）における教育課程に基づく教育の実施状況

1 教育課程特例校としての取組

- ・外国語活動の授業を第1学年から導入している。
- ・専科教員や非常勤講師、ALTとのTT体制で授業を実施している。
- ・中学校教員による「出前授業」を実施することにより、中学校の授業を体験するとともに、小学校での学習活動が中学校に進学してから役立つことを実感できるようにしている。
- ・小中連携の「出前授業」や「授業参観」を通し、学級担任の英語力や授業力の向上に努めている。

2 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）

	自己評価	学校関係者評価
成果	<p>○特例校として、研修や実習を受ける機会があったので、少しずつ外国語活動への苦手意識がなくなってきた。</p> <p>○各指導者と担任による事前の打合せをもとに、1時間の授業の流れを確認し、見通しをもって授業に臨めた。</p> <p>○低学年から外国語に親しんでいるので、外国語に対する抵抗が少なくなり、進んで聞いたり、相手に伝えたりしようとする児童が増えた。</p> <p>○研究授業や研修を通して、実践的に外国語活動の進め方を学ぶことができた。</p> <p>○児童の外国語活動に対する興味・関心が高まり、外国語表現への慣れ親しみ、コミュニケーション能力の育成が図られてきた。</p> <p>○外国語活動の中で、様々な国の文化や様子について学んでいる。その成果として、児童は外国語を身近に感じたり、外国の生活の様子についての知識を得たりすることができていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生から英語の授業に取り組んでいることが素晴らしい。 ・外国語指導は、英語に親しみを持たせる点で有効だと思う。
課題	<p>○担任が積極的に外国語を使って授業をすることは難しく感じた。今後は更に研修等が必要である。</p> <p>○個人差があり、なかなか自分から進んでコミュニケーションをとれない児童への支援策を考える必要がある。</p> <p>○高学年になるに従い「書く活動」「話す活動」が増えてきたことから、楽しく外国語を学ぶことが難しくなってきたように感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生たちの英語力の更なる向上を期待したい。 ・外国語教育について、これまでの研究の成果を踏まえて更に充実させてほしい。